

フランス音楽の世界～ホリガー初期と近年の作品とともに～



©Priska Ketterer

伝説のオーボエ奏者、  
待望のリサイタルが実現！

# ハインツ・ ホリガー オーボエ・リサイタル

Heinz Holliger Oboe Recital

ラヴェル：ハバネラ形式の小品／カディッシュ

Maurice Ravel (1875-1937): Pièce en forme de Habanera (1907) / Kaddisch (1914)

メシアン：ヴォカリーズ・エチュード／初見視奏曲

Messiaen (1908-1992): Vocalise-Etude pour hautbois et piano (1935) / Morceau de Lecture (1942)

ホリガー：ライフライン

～クララ・ハスキルへのオマージュ \*ピアノ・ソロ

Holliger (1939-): « Lebenslinien » for piano solo (Hommage à Clara Haskil) (2020 / 21)

ホリガー：コン・ズランチョ \*オーボエ・ソロ

Holliger (1939-): Con slancio for oboe solo (2018)

ホリガー：オーボエとピアノのためのソナタ(未発表曲)

Holliger (1939-): Sonata for oboe and piano (1957) (unpublished)

ホリガー：ピアノのためのソナチネ \*ピアノ・ソロ

Holliger (1939-): Sonatina for piano (1958)

ジョリヴェ：オリノコ川の丸木舟を操る人の歌

Jolivet (1905-1974): Chant des pirogues de l'Orénoque, for oboe and piano

サン=サーンス：うぐいす

Saint-Saëns (1835-1921): « Le Rossignol » for oboe and piano

ラヴェル(ウォルター編)：ソナチネ(オーボエとピアノ編)

Ravel (1875-1937): Sonatina (Transcription for oboe and piano by David Walter)

アントン・ケルニヤック(ピアノ)

Anton Kernjak, piano



2023 9/19 | 火 | 19:00開演(18:30開場) 東京文化会館 小ホール

S席 7,000円 A席 5,000円 U25(25歳以下対象) 3,000円

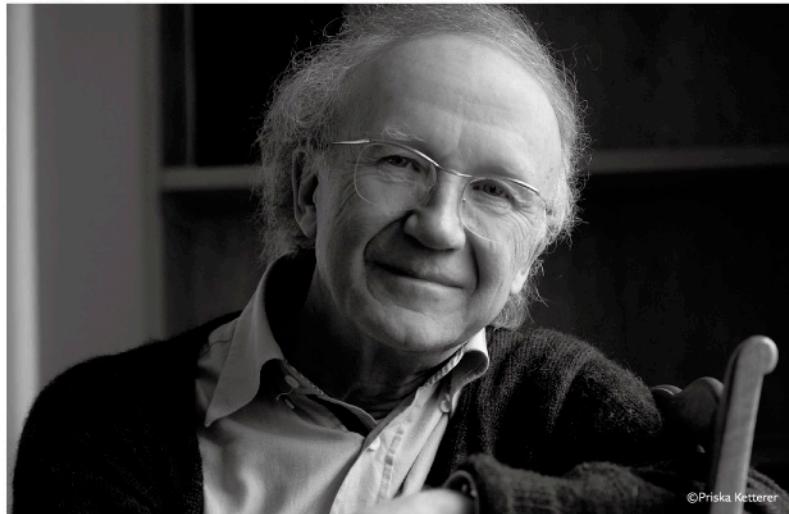
4月4日(火)発売開始

イープラス eplus.jp チケットぴあ t.pia.jp 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 (10:00-18:00)  
ヒラサ・オフィス 03-5727-8830 (平日10:00-17:00)

# *Heinz Holliger Oboe Recital*

1939年生まれ、今年84歳を迎えるホリガー。オーボエ奏者、指揮者、作曲家という3つの顔を持ち、そのいずれも世界最高峰の実績を誇る。

オーボエ奏者としては、1959年にジュネーヴ国際音楽コンクール、1961年にミュンヘン国際音楽コンクールでいずれも第1位を獲得し、華々しいキャリアをスタートさせた。指揮者としてもベルリン・フィル、ウィーン・フィルをはじめとした世界一流のオーケストラに客演。さらに作曲家としても驚異的な創作意欲を見せ、日本では2017年に東京オペラシティの同時代音楽企画「コンポージアム 2017」に招かれ、自作の超大作「スカルダネッリ・ツイクルス」を指揮し絶賛を博したことは記憶に新しい。今回は2019年以来の来日となり、しかも日本では久々のリサイタルが実現する——もはや生ける伝説と化したホリガーを、目と耳に焼き付けたい。



## ハインツ・ホリガー(オーボエ)

Heinz Holliger, oboe

ハインツ・ホリガーは、現代において最も多才で非凡な音楽家の一人である。ジュネーヴ、ミュンヘン両国際音楽コンクールで優勝を果たし国際的演奏家として比類ないキャリアをスタートさせたホリガーは、世界中の主要コンサートホールで演奏してきた。作曲家、演奏家双方の活躍を通じて、オーボエの技術的な可能性を広げた功績は大きく、現代を代表する数々の作曲家たちから作品を献呈されている。

スイス音楽家協会作曲家賞、チューリッヒ大学およびバーゼル大学の名誉博士号など多くの栄誉や賞を受賞。2015年スイス音楽大賞を、2022年ドイツ・マインツ市科学アカデミーのシューマン賞を受賞。2016年米国芸術科学アカデミー外国人名誉会員に選出される。

指揮者として、世界の一流オーケストラ、アンサンブルと共に演しているホリガーはまた、作曲家としても世界各地からオファーが途絶えることが無く、作品はショット・ミュージック・インターナショナル社から出版されている。ロベルト・ヴァルザー著による小劇「白雪姫」をモチーフに作曲したオペラはチューリッヒ歌劇場で上演、国際的に大きな注目を浴びた。また2018年には新作オペラ『ルネア』をチューリッヒ歌劇場が制作、旺盛な作曲意欲は留まることを知らない。

オーボエ奏者、指揮者、作曲家として、テルデック、フィリップス、ECM、SWR/Hänsler、Auditeから多数の録音を発表。2022年にはハインツ・ホリガー自身のオペラ『ルネア』がECMからリリースされた。



## アントン・ケルニヤック(ピアノ)

Anton Kernjak, piano

スロヴェニア系オーストリア人の家庭に育つ。優れた室内楽奏者として、ヨーロッパ各地、カナダ、アメリカ、日本で多様な演奏家と共に演、チューリッヒ・トーンハレ、ベルリン・コンツェルトハウス、ケルンWDR、ウィグモアホール、カーネギーホールなど世界各地で演奏している。

チェリストのアニタ・ロイツィンガーとデュオを結成、定期的に共演している。また、スイス人作曲家ローランド・モーザー、ユーグ・ヴィッテンバッハ、ハインツ・ホリガーとのコラボレーションをライフワークの一つにしている。ハインツ・ホリガーとはデュオやトリオの様々な室内楽を共演、ラジオ、CDにも録音。ECMからリリースされるCDには、オーボエとピアノのためのフランス音楽作品を収録。

2009年よりバーゼル音楽大学で教鞭を執っており、現在は室内楽の教授を務めている。

クリストフ・リースケ、ルドルフ・ブッフビンダー、ジェルジ・クルタークに師事、著名なハンガリー人教師フェレンツ・ラドシュのもとで長年に渡って研鑽を積んだ。